



メキシコ海外実践教育プログラム 今の自分に挑戦するということ

農学部 生物資源環境学科（'07 入学） 村瀬峻史

2009 年秋、私は鳥取大学のプログラムの 1 つである「メキシコ海外実践教育カリキュラム」に参加し、約 3 カ月の間、メキシコのラパスにて様々なことを 17 名の仲間と共に学んできました。メキシコで生活することに対して不安はありませんでした。それよりも、自分が成長できる貴重なチャンスという認識が強かったかと思います。実際、メキシコでの経験はかけがえのないものとなりました。壮大な自然に圧倒され、国民食のタコスには舌を喰らされ、伝統的な文化や温かい人々には毎日感動させられました。

また、17 人での共同生活を通して、私はたくさんの大切なことを学ぶことができました。その中の 1 つに「自分の弱さ」を発見できたことが挙げられます。約 3 カ月間の共同生活を通して「自分の弱さ」が浮き彫りになったのです。その時は落ち込んだりしていましたが、振り返ってみると、この発見は人生において非常に大切なことではないかと思えるようになりました。自分を知ること、それは自分の弱さを知ることでもあります。自分の弱さを知ること、より素敵な自分になるためのアプローチの仕方が分かります。それに向かって努力する、この一連の過程が成長であると思います。メキシコでは、自分を改めて見つめ直す素晴らしい機会を得ることができました。

大学は大人と子どもの間という表現がよくされます。大学に入ると、それまで以上に責任が伴う行動が増えます。それと同時に、そのような状況で様々なことを経験すると、それまで以上に自分の弱さが浮き彫りになります。私はこれが自分の強さにもつながるということに気がつきました。大学でこの事に気がつけられるということは非常にラッキーなことではないでしょうか。なぜなら、社会に出るとそれまでの比にならないほどの責任が伴うという話をよく耳にするからです。大学では自分を知るチャンスを得られます。これから大学生活を送り始める方々には、ただ単に毎日をこなすだけではなく、何かしらの意識を持ちながら有意義な大学生活を送ってほしいと思います。

「今の自分に挑戦するということ」は、今の自分に満足せず、常に理想の自分像を描き、それに向かって切磋琢磨するということです。時には、自分に甘えてしまう事もありますが、身体と頭を十二分に使い、やる時はしっかりやる！遊ぶ時はしっかり遊ぶ！という姿勢で、何事に対してもハングリー精神を持つ素敵な大人になりたいと思います。

上述しましたが、私はメキシコでたくさんの大切なことを学びました。これからもこの素晴らしい経験を多くの人達に体験してもらえよう、このプログラムの継続と一層の発展に期待したいと思います。